

機関番号：34310

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2008～2010

課題番号：20530431

研究課題名（和文） 保険会計の構造分析による全面公正価値会計導入の影響分析

研究課題名（英文） An Inquiry on the Impact of Introduction of Overall Fair Value Accounting through Structure Analysis of Insurance Accounting

研究代表者

松本 敏史（MATSUMOTO TOSHIFUMI）

同志社大学・商学部・教授

研究者番号：90140095

研究成果の概要（和文）：公正価値会計は市場の価格変動をそのまま会計数値に取り込む計算構造であり、利益額や純資産額が著しく安定性を欠く。世界同時株安と金融危機の中で実施された「時価会計の凍結」は公正価値会計が引き起こす社会的弊害に対する強い危機感の反映にほかならない。公正価値会計の導入は、資産、負債の測定属性の多様化（首尾一貫性の欠如）、負債のパラドクス問題等、会計理論、会計制度、会計実務に様々な混乱をもたらしている。

研究成果の概要（英文）：Fair value accounting has a structure that introduces market price fluctuations into its accounting figures and its amount of income and net assets noticeably lacks stability. "Freezing of accounting on market value basis" conducted just after the world wide crash of stock prices and the following financial crisis was just a reflection of the strong sense of crisis on social evils caused by fair value accounting. Introduction of fair value accounting has brought confusions and problems into accounting theory, institutions and practices through diversification (lack of coherence) of measurement attributes for assets or liabilities, the paradox of debt, and so on.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2009年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
総計	3,400,000	1,020,000	4,420,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：経営学・会計学

キーワード：財務会計・公正価値会計・国際会計基準

1. 研究開始当初の背景

国際会計基準審議会（IASB）と米国財務会計基準審議会は、資産と負債を公正

価値で測定する会計基準を作成し、それによって国際的なコンバージェンスを進めている。その中でIASBは2007年に

保険債務を現在出口価値で測定することを提案した。この会計処理は他のプロジェクトとも密接に関連しており、あらゆる企業の財務報告に影響する。しかし公正価値情報が何に役立つのか、いかなる経済的帰結がもたらされるのか、この点についてはほとんど解明されていない。

2. 研究の目的

保険契約の会計を手がかりに公正価値会計の特性とわが国の産業界に対する影響を分析し、政策提言に必要なインプリケーションを得ることを目的とした。そのために以下の段階的な目標を設定した。

(1) 保険契約には金融商品と役務提供の二側面があるが、IASBはこれを金融商品とし、公正価値で測定する会計処理を提唱している。その構造とその特徴を明らかにする。

(2) 両審議会は、公正価値測定の対象を様々な会計領域に拡大しようとしている。そのため研究対象をそれらの項目に拡大し、公正価値会計の一般的特性を明らかにする。

(3) 公正価値会計の導入に対する実務側の反応を確認する。

3. 研究の方法

(1) 保険契約の会計処理の構造を明らかにするために討議資料を分析する。その際、生命保険会社の関係者から助言を得ることにより、理論と実践の両面から分析する。

(2) 収益認識のプロジェクト、金融商品会計、非金融負債、退職後給付等の関連文書を分析し、公正価値会計の一般的特徴を抽出する。

(3) 公正価値による会計が物作りを基調とするわが国の産業社会に適合するの否か不明である。この点について理論研究とともにヒアリング調査などを通じた考察を行う。

4. 研究成果

(1) 公正価値会計は市場の価格変動をそのまま会計数値に取り込むため、利益額や純資産額が著しく安定性を欠く。このような研究活動の遂行中に勃発したのが、世界同時株安と金融危機の中で実施された「時価会計の凍結」である。この緊急政策の実施と各国における会計基準の見直しの動きは、公正価値会計が引き起こす社会的弊害に対する強い危機の反映にほかならない。

(2) 原価会計と公正価値会計の違い、混合属性測定モデルのバリエーション、保険負債に公正価値測定を適用する場合の測定属性や認識のタイミング、金融負債の公正価値測定が生み出す負債のパラドクス問題等の分析を通じて、公正価値会計の様々な理論的特徴、会計取引に対してもたらず変化、制度的・実践的な手続における首尾一貫性の欠如が浮き彫りとなった。

このような特質をもつ公正価値会計の導入がさらに押し進められるとき、日本の産業社会にいかなる問題が生じるのか、この点についてさらなる研究の蓄積に努めたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計21件)

- ① 徳賀芳弘, 会計利益モデルと純資産簿価モデル—フロー・ベースからストック・ベースへのパラダイム転換—, 企業会計, 査読無, 63巻1号, 2011, 93-102
- ② 松本敏史, 今, もう一度会計の本質を考える, 会計, 査読無, 177巻5号, 2010, 1-8
- ③ 松本敏史, 対照勘定段階的取崩論, 日本簿記学会年報, 査読有, 25号, 2010, 41-47
- ④ 松本敏史, IAS37号を巡る動きと計算構造の変化, 企業会計, 査読無, 62巻9号, 2010, 25-32
- ⑤ 松本敏史, 企業の社会的価値計算表の提案, 立命館経営学, 査読無, 48巻5号, 2010, 17-29
- ⑥ 徳賀芳弘, 公正価値会計の行方—パラダイム転換の分岐点としての金融負債の公正価値評価—, 企業会計, 査読無, 62巻1号, 2010, 18-21
- ⑦ 草野真樹, 金融資産の減損処理を巡る動向とその特徴, 日本銀行金融研究所 DP シリーズ, 査読無, 2010, 1-29
- ⑧ 草野真樹, 金融負債の公正価値測定の動向と報告企業の信用状態の変化, 会計, 査読無, 178巻4号, 2010, 498-510
- ⑨ 松本敏史, 包括利益の意味と新たな企業価値評価モデル—株主主権主義を超えて—, 会計理論学会年報, 査読有, 23号, 2009, 22-31
- ⑩ 松本敏史, 資産負債アプローチによる収益認識基準—実現稼得過程アプローチに代わりうるか—, 日本会計研究学会スタディ・グループ 会計制度の成立根拠と GAAP の現代的意義 (中間報告), 査読無, 2009, 49-67
- ⑪ 松本敏史, 収益の認識と負債の認識

, 企業会計, 査読無, 61巻2号, 2009, 48-57

- ⑫ 徳賀芳弘, 国際財務報告基準への日本の対応—連単分離を論ずる枠組み—, 税経通信, 査読無, 2009年8月臨時増刊号, 2009, 3-10
- ⑬ 徳賀芳弘, グローバリゼーションと財務会計研究の継承と発展, 会計, 査読無, 175巻1号, 2009, 1-11
- ⑭ 草野真樹, 金融負債の公正価値測定と無形財—要求払預金の会計処理を中心として, 会計, 査読無, 176巻4号, 2009, 529-544
- ⑮ 高寺貞男, 草野真樹, サプライム会計の批判的研究, 大阪経大論集, 査読無, 59巻6号, 2009, 179-186
- ⑯ 草野真樹, 金融資産の減損—FASBとIASBの会計基準の相違点と検討課題, 企業会計, 査読無, 61巻7号, 2009, 1010-1018
- ⑰ 松本敏史, 財務会計と管理会計の新たな融合, 会計, 査読無, 173巻5号, 2008, 55-69
- ⑱ 徳賀芳弘, 研究開発投資の公正価値評価—測定値の硬度の低さと測定対象の識別の難しさ—, 会計, 査読無, 173巻4号, 2008, 21-33
- ⑲ 草野真樹, 金融商品の全面公正価値会計の課題—ローン・コミットメントを中心として—, 会計, 査読無, 174巻4号, 2008, 556-568
- ⑳ 草野真樹, PAAinE 討議資料の収益認識アプローチの意義と課題 (特集 収益認識を巡る主要論点), 企業会計, 査読無, 60巻8号, 2008, 48-56
- ㉑ 小川淳平, 保険契約に関する会計上の測定—保険契約・収益認識の改訂プロジェクトにおける測定属性の整合性, 生命保険論集, 査読無, 164号, 2008, 67-100

〔学会発表〕（計 13 件）

- ① 徳賀芳弘，財務報告の変革『財務報告と公正価値会計—負債の公正価値評価を中心として—』，日本会計研究学会特別委員会，2010年10月2日，北海道大学（北海道）
- ② 松本敏史，統一論題（座長）：今，もう一度会計の本質を考える—理論（制度）・歴史・実証からのアプローチ—，日本会計研究学会（関西西部会），2009年12月19日，大阪経済大学（大阪府）
- ③ 徳賀芳弘，統一論題報告：今，もう一度会計の本質を考える—理論（制度）からのアプローチ—，日本会計研究学会（関西西部会），2009年12月19日，大阪経済大学（大阪府）
- ④ 徳賀芳弘，IFRS Adoption in Japan, Korea, and Taiwan: Experiences Sharing and Implications for Accounting Education, 2009, 台湾會計理論與實務研討會，2009年12月10日，國立成功大學（台湾）
- ⑤ 徳賀芳弘，Earnings Management by Means of Changes in Accounting Entities—The Case of Tobu Railway Company—, Asian Academic Accounting Association Conference 10th Annual Conference, 2009年11月16日，KADIR HAS UNIVERSITY（ISTANBUL TURKEY）
- ⑥ 徳賀芳弘，課題研究委員会報告：日本の財務会計研究の棚卸—国際的な研究動向の変化の中で—，日本会計研究学会（全国大会），2009年9月2日，神戸国際会議場（兵庫県）
- ⑦ 松本敏史，統一論題：対照勘定段階的取崩論，日本簿記学会（全国大会），2009年8月26日，東京経済大学（東京都）
- ⑧ 松本敏史，統一論題：原価主義会計の観点からの収益認識と複式簿記，日本簿記学会（関西西部会），2009年5月20日，九州大学

（福岡県）

- ⑨ 徳賀芳弘，The relationship between R&D spending and the earnings management of Japanese electronics companies, Ninth Annual Asian Academic Accounting Association Conference, 2008年11月29日，Dubai(World Trade Center)
- ⑩ 草野真樹，The Applicability of Full Fair Value Accounting: Accounting for Financial Instruments in Banks, Ninth Annual Asian Academic Accounting Association Conference, 2008年11月29日，Dubai(World Trade Center)
- ⑪ 草野真樹，The Boundaries of Full Fair Value Accounting for Financial Instruments, The 20th Asian-Pacific Conference, 2008年11月12日，Le Meridien Montparnasse Hotel (Paris, France) .
- ⑫ 松本敏史，統一論題報告：包括利益の否定と新たな企業評価モデル—株主主権主義を超えて—，会計理論学会（全国大会），2008年10月11-12日，熊本学園大学（熊本県）
- ⑬ 松本敏史，統一論題（座長）：会計基準のコンバージェンスと複式簿記～簿記の視点から会計の動向を読み解く～，日本簿記学会（関西西部会），2008年5月31日，滋賀大学（滋賀県）

〔図書〕（計 3 件）

- ① 松本敏史，他，税務経理協会，引当金会計，菊谷正人編著『IFRS IAS（国際財務報告基準・国際会計基準）徹底解説 計算例と仕訳例でわかる国際会計基準』，pp. 85-94, 2009, 328（総頁）
- ② 松本敏史，他，神戸大学経済経営研究所，企業の社会的価値測定モデル，シャム・サンダー・山地秀俊編著『日本のもの造り組

織指向の会計と国際会計』, pp. 5-22, 2009,
180 (総頁)

③ 徳賀芳弘, 他, 神戸大学経済経営研究所, 公正価値会計の意味－概念の明確化と経済社会へのインパクト, シャム・サンダー・山地秀俊編著『日本のもの造り組織指向の会計と国際会計』, pp. 121-164, 2009, 180 (総頁)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松本 敏史 (MATSUMOTO TOSHIFUMI)
同志社大学・商学部・教授
研究者番号 : 90140095

(2) 研究分担者

徳賀 芳弘 (TOKUGA YOSHIHIRO)
京都大学・経営学研究科・教授
研究者番号 : 70163970

(3) 連携研究者

多賀 寿史 (TAGA HISASHI)
琉球大学・観光産業科学部・准教授
研究者番号 : 80336362

草野 真樹 (KUSANO MASAKI)
京都大学・経済学部・准教授
研究者番号 : 50351440

小川 淳平 (OGAWA ZYUNPEI)
名古屋市立大学・経済学研究科・准教授
研究者番号 : 00453077